

分科会2

子ども達の成長を紡ぐ支援・関わり

～各職種の立場から見た保護者支援～



こころとそだちのクリニックむすびめ

臨床発達心理士 佐々木美春

自己紹介

- ▶ 幼児教育の大学卒業後、当麻町母子通園センターに療育指導員として入職。
- ▶ 北海道クリスチャンセンター家庭福祉相談室に入職。児童発達支援や放課後等デイサービス、保育所等訪問支援事業の児童発達支援管理責任者として勤務。（療育に携わって約15年）
- ▶ 江別市こども発達支援センターに相談支援として勤務（相談支援に携わって4年）
- ▶ こころとそだちのクリニックむすびめに臨床発達心理士として勤務。（医療現場に携わって4年）



今、振り返って（Stage I） ～療育現場から

- ▶ 発達支援事業所を卒業し、数年後に保護者に会って言われたこと。

「先生の言ったとおりに、支援学級に行かせて良かった」

→嬉しい反面、自分の一言でこの子の人生を決めてしまったのではないかと不安になった。この頃の私は発達障害のある子どもは、支援学級で手厚い支援を受けた方が良いと思っていた。そのため保護者に「支援学級に行った方が良い」と強く保護者に伝えていた。

現在は、支援学級と通常学級の両方のメリット・デメリットを伝え、あくまでも家族や本人が決定することを大事にしている。決定した意思が私の意見と食い違っていたとしても、家族が出した結果を尊重する。もし途中で修正が必要になった時に、保護者から相談してもらえるような信頼関係を築いていけるよう心がけている。



今、振り返って（Stage I） ～療育現場から

- ▶ 発達支援目標で、定型発達の子どもに追いつかせるようにしていたあの頃。

→支援目標『はさみができるようになる』と目標を立てていた。

はさみができるようになることは大事。しかし、はさみができること自体が目標なのではなく、はさみを使って紙を切り、大好きな作品を作りたい、そのためにははさみを使わなければいけないからはさみをつかえるようになりたい。と考えなくてはいけなかったと反省。

「○○ができるようになる」ではなく、将来を見据えながら、今その子に何が大切なかを根底に置き、発達段階を踏まえたスモールステップでの支援が大事だと思う。

今は、はさみを使えないのなら誰かに助けてもらえたら良いのではないかとも思えるようになった。



今、振り返って (Stage II)

～相談支援の現場から

- ▶ 精神疾患を抱えている保護者に頼りにされ、業務以上のことを頼られた。私は嬉しくなりそれに応えていたが、必要以上に頼られるようになり、正直重荷になっていった。

→相談者が頼れる場所を複数にする。自分の業務の枠組みを伝え、出来ること、出来ないことを一緒に確認する。その人のして欲しいことをどこに行けばやってくれるかを一緒に探すようにした。

私が出来ることをするか、出来ないことを誰かに頼るか、そういう姿を見せることで親も私も万能でなくて良いと理解し合いたい。

→その人の一生を背負うことは難しい。支援者が側にいなくても一人で自立するためにどのようなサービスが必要なのか、誰に頼れば良いのかを一緒に考える必要があると思った。



今、振り返って（stageⅢ） ～医療の現場から

▶ ことば（言語化）で自分の気持ちを言える大切さ

→今まではことばを持たない子どもの支援が多く、『なんとなくこう思っているだろう』で済ませていることが多かった。また、小さい子どもの支援には保護者の意見が強く、子ども自身の気持ちを聞くことは少なかった。しかし、子ども自身も自分の意見を持っていて、たどたどしくてもその子の持っていることばで相手に伝えられるのだと知った。自分のことばで相手に伝える大事さ、そしてことばを持たない子どもには私がその子どもに代わって言語化をする大事さを知った。

▶ ことば（言語化）で伝え合う関係性

→子ども自身からことばで「○○したい」「○○になりたい」と言ってもらったときに、応えられる関係性を作っていく大事さを知った。



今、振り返って（stageⅢ） ～医療の現場から

- ▶ 医療とは、診断名を下し、『治療』するところ。
- ▶ 自分が医療の中で何が出来るんだろう・・・。

→田中哲先生

- ▶ 『子どもにとって大切なことは、自分の心の育ちを大切に思ってくれる大人に出会うこと。それは医療だけではなく教育・福祉すべての人に言えること。』
(育つこと育てること-子どもの心に寄り添って)



今、振り返って (StageⅢ)

～医療の現場から

▶ 発達支援って何だろう??

→出来ないことを出来るようにすることなのではないのだろう。

▶ 私が考える発達支援とは、

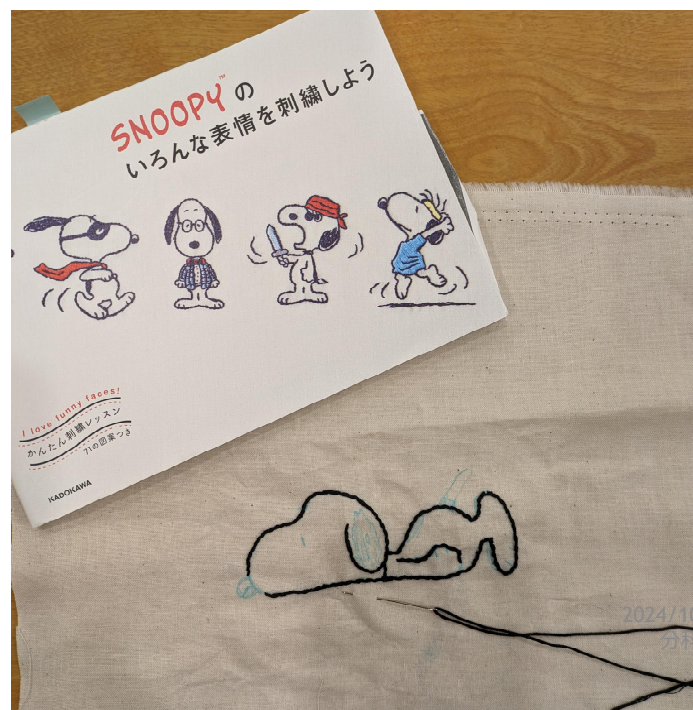
- その人が自分のやりたいことに気がついてその気づきを応援・支援する。
- その気づきに従って選択する。
- その実現に向けて一緒に考え行動する。
- その人の「やりたい」と思うことを邪魔せずお手伝いすること。
- 子どもや保護者に正直であること。



むすびめでの日常



むすびめでの日常



子ども達の成長を紡ぐ支援をしているものとして

- ▶ 関わっている子どもの支援で、悩んで考えてどうしようもなく苦しんで苦しんでその子どもと対面した・・・。

すると次の支援の日には、子どもの行動が改善されている。

→なぜ??? 支援の方法は変えていないのに・・・。

→その子の事をたくさん考え、悩み続けたから。

そのことが子どもにもきっと伝わるのだと思う。

恩師の伊藤則博先生は「たくさん悩んで、たくさん考えなさい」と教えてくれた。

たくさん悩んでたくさんその子の事を想う人の力は、きっとその子に伝わると思う。



そして・・・これからに向けて

- ▶ たくさん悩んで、困ったら職場の同僚やここに集まっている乳幼研の仲間に相談したら良い。ここには、自分とは違う職種の間がいる。違う見方をしてくれる。
- ▶ 私は、色々な職種を経験し、子どもの見方が変わった。Stageも変わった。関わる職種が変われば見方も変わるかもしれない。困ったらいろいろな人に相談したら良い、そう思っています。私自身、乳幼研の仲間に幾度となく助けられて今仕事をさせてもらっている。
- ▶ 今後もこのつながりに感謝しながら、仕事をしていきたいと思う。

